

はじめに一資本主義が死ぬとき

資本主義の死期が近づいているのではないが。
地球上のどこにもフロンティアが残されていないため
→ 投資によって成長させる場所が残っておらず利益を出すことができない。

第一章 資本主義の延命策でかえって苦しむアメリカ

資本主義とは「成長」を最も効率的におこなうシステム
現在は、資本家が誕生して以来の大転換期である → 利子率の異様な動きが証明
昨今の先進国では際立った利子率の低下が目立つ
16世紀末から17世紀初頭のイタリアでも同じことが起きている。
イタリアでは金銀が国内であふれていた。
→ 資本主義が機能していないことを示す

オイルショック等をきっかけに交易条件が悪化し、ものづくりが割りに合わなくなった。
ベトナム戦争での敗北により、軍事力による「地理的・物理的空間」での市場拡大も期待できなくなる
→ 別の「空間」として「電子・記入空間」を生み出す。

世界の余剰マネーを「電子・記入空間」に呼び込み、その過程でITバブルや住宅バブルが起こった。

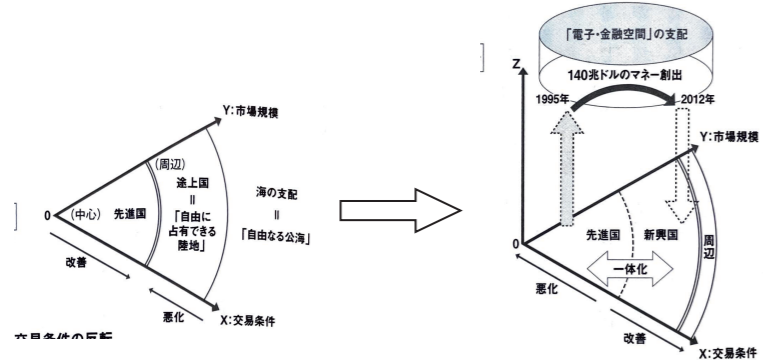
アメリカを金融帝国化した

新自由主義の元金融市場の拡大を行ったため、格差を拡大した。

「電子・記入空間」
資本は瞬時に国境を越え、キャピタルゲインを稼ぎ出すことができる。
地球上の誰もが参加可能になった。

新自由主義
資本分配を市場に任せる考え方。
資本側へのリターンを増やすため富むものが富み、貧しいものがより貧しくなる。

「新興国市場」
BRICSのような新興国の近代化を促すことで新たな投資機会を作り出す市場



リーマンショックによってアメリカ金融帝国は崩壊
バブル崩壊後の日本同様、低金利政策へ

第二章 新興国の近代化がもたらすパラドックス

先進国は「電子・金融空間」と別に「新興国市場」を作り出した。

新興国の成長が続いたとして、考えたとき
無限の膨張を「善」としてきた資本主義の「限界」が近づく。

今までの近代化とは異なり、中国人、インド人の全員が豊になるものではない。
近代化によりガソリン、電気の消費量は増える。
先進国 12.4 億人の近代化は望めない。

豊かな国と貧しい国の二極化は国家内で起こることになる。これにより、先進国での中間層は没落する。



本来、近代化は中間層を作り、中間層が民主主義と資本主義を支持することで近代システムを成り立たせていた
近代の延長上で、成長を続ける限り、新興国も先進国と同様の問題に陥る。

第三章 日本の未来をつくる脱成長モデル

資本主義を延命させる「空間」はもうほとんど残されていない。
中国が「利潤率の低下」に直面した時点で近代資本主義は臨界点に達する。

日本は先進国の中でいち早く資本主義の限界に直面している国といえる

デフレ、超低金利、経済低迷は資本主義の成熟を証明する。
新たな経済システムを構築する与件と捉えるべき。
経済成長を求めても、特権階級が富みを得るだけで、格差を作る。

成長を求めない近代システムを構築する必要がある。= 脱成長モデル

第四章 西欧の終焉

欧州危機は「歴史の危機」と捉えられる
資本主義の終焉に限らず西洋文化の終焉の始まりと言える

EUは独仏の「領土」帝国という性格がある。
「海の国」であった英米に対して、独仏は「陸の国」
英米が資本を蒐集したのに対し、独仏の関心事は「領土」帝国

ヨーロッパの歴史は蒐集の歴史といえる。

中世キリスト教は魂を蒐集
近代資本主義はモノを蒐集
蒐集という概念がヨーロッパ精神を作った

ユーロ帝国は資本にも軍事にも依存せず、理念によって蒐集する帝国

資本主義も周辺と中心を作り、資本を中心に蒐集させるシステム
このシステムから卒業するのは難しい

第五章 資本主義はいかにして終わるのか

ハード・ランディング・シナリオ

中国の過剰バブル 過剰な設備投資を回収できず、バブルが崩壊
中国の海外資本、国内資本共に海外へ逃避していく。
中国がアメリカの国債を売るようになり、ドルの終焉を招く。

ソフト・ランディング・シナリオ

「定常状態」
減価償却の範囲内だけの投資しか起こらないこと。
自動車一台の状態から増やさず、載りつづいた時点で買い替えること